

カジノ利益率の考察

報告書ではカジノの利益率を**10%**としている。さらに10%は税引き前として扱っている。カジノは儲かるとのイメージはある。税引き前10%の利益は日本ではその辺の会社に行くだけでもある。

出所：英国カジノ大手ランカグループ（英）の2013年度カジノ部門貢献利益率 10.4% 123頁
（アンダーラインは追加した）

グループは多くの事業をしている。カジノは全事業の内10.4%とも解釈できる。

34頁の表

事業区分（社名）	利益率
Grosvenor Casino	15.6%
Mecca Bingo	14.9%
Enracha	2.5%

一方カジノに対する税金の表がある 36頁

ゲーミング・ライセンス税（国税）日本の電気料金のように段階料金（納付金？）
3億7千8百万円を越えると40%になる。新規開発型の収入は1,798億円なのでこの税率は一応**40%**とする。

ゲーミング機械ライセンス税（国税）

固定資産税みたいなもの 機械の種類によって2種

type2 5%

type1 20%

どんな機械を使用してるか全く分からない。乱暴であるが**10%**にする

ライセンス・フィー（地方税）

毎年払う税金ではないのでここでは無視

よって40+10=**50%**が税金となる。この税金は日本では必要ない。報告書で採用してる10%にすると日本では**60%**が税引き前の利益と考えられる。これは過大と考えられる。

本来は経費を引く正攻法でやるべきである。国毎に人件費、社会保険、年金、固定資産税、減価償却制度は異なる。特に、スロットマシン一台毎に税金を掛ける国もある。

米国は州によっても制度が異なるが、納付金はカジノ業者が導入自治体に提示する。
他国の利益率を持ってくるのは無理である。

一般にこうした利益率は公表しないようである。新規開発型は大規模のシンガポール（IR型）を採用してるに、利益率は小規模（カジノのみ）の英国を使用してる。

35頁にランクグループのカジノー店舗あたりの平均収入が9.21億円とある。
 一方、新規開発型の収入は1,798億円。商店街の個人商店と郊外のスーパーマーケットを同列に扱ってるようなものである。

参考

参考までに日弁連の資料を紹介する。10/38ページの表は分かりづらいので書き替える。既存施設活用型と考えられる。

単位1千ドル

収入		収出	
カジノ	615,734	コンプ	217,816
部屋	113,195	営業経費	574,087
飲食	140,292	償却費	60,908
その他1	44,295	その他経費	121,785
		金利	81,335
		その他2	-85,838
収入合計	913,516	収出合計	970,093

収入合計（913,516）－ 収出合計（970,093）＝（利益）－56,577

利益 －56,577千ドル ＝ －67.89240億円（1ドル120円で計算）

収入 913,516千ドル ＝ 1096.21920億円

つまり1,096億円の収入に対して**68億円の赤字（－6%）**

コンプ比率 217,816（コンプ）／615,734（カジノ収入）＝ 35.4%

コンプがないとすると全体の利益

$$913,516 - (970,093 - 217,816) = 161,239 \text{千ドル}$$

$$= 193.4868 \text{億円}$$

全体の利益率 161,239／913,516 ＝ 17.6%

カジノの利益率は経費の分離ができないので計算できない。

また、コンプがないとカジノを含む収入が減るので、この計算は目安となる。

*その他1, その他2は合計と合わないので調整のため挿入した。収入合計と利益を動かさないように計算した。

コンプ費用の内訳

単位千ドル

	人数	金額
部屋	606,359	70,792
食事	1,393,175	32,486
飲み物	5,939,853	19,305
ゲーム	2,814,840	70,371
現金贈与	532,952	13,324
娯楽	127,082	5,083
小売	44,768	2,238
その他	87,593	4,217
合計	11,546,622	217,816